

平成29年度
教育委員会の点検と評価

平成30年6月
川越町教育委員会

目 次

I	点検・評価の実施	… … … … … … … … … …	1
II	点検・評価の目的	… … … … … … … … … …	1
III	点検・評価の対象	… … … … … … … … … …	1
IV	点検・評価の流れ	… … … … … … … … … …	1
V	学識経験者の知見の活用	… … … … … … … … … …	2
VI	実施方法の改善	… … … … … … … … … …	2
VII	自己評価	… … … … … … … … … …	2
VIII	点検・評価	… … … … … … … … … …	3
	・ 教育委員会の活動	… … … … … … … … … …	3
	・ 学校教育分野の活動	… … … … … … … … … …	4
	・ 社会教育分野の活動	… … … … … … … … … …	6
IX	総評	… … … … … … … … … …	8

I 点検・評価の実施

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、一般に公表いたします。

II 点検・評価の目的

教育委員会制度では、教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的、具体的な教育行政の事務・事業を執行します。また、それらが適正かつ的確に執行されているかをチェックし、それをもとに常に改善していく必要性があります。

教育委員会では、より充実した教育行政を進めるとともに、開かれた教育委員会の推進を図り、町民の皆様への説明責任を果たすため、この点検・評価を積極的かつ効果的に活用します。

III 点検・評価の対象

教育委員会が前年度に実施した施策等（事務・事業）を点検・評価します。

IV 点検・評価の流れ

前年度に実施・推進した施策等について、点検・評価を行い、議会への報告及び町民への公表を行います。

■ 実施スケジュール

1	前年度	点検・評価方法の確認
2	4 月	評価項目、取組結果の整理 教育委員会での点検・評価
3	5 月	学識経験者への意見聴取 教育委員会のまとめ
4	6 月	議会への報告
5	7 月	町ホームページ等での公表

V 学識経験者の知見の活用

教育委員会の点検・評価の客観性を確保するため「教育に関し学識経験を有する者の知見を活用」します。

これにより、教育委員会自らが行った点検・評価やその方法に対して公正・的確な意見を述べていただき、この制度の客観性を確保し、効果性を高めます。

■ 学識経験者

川越高等学校 校長 丹羽 毅 さん
元・川越中学校PTA会長 平田 敦徳 さん

VI 実施方法の改善

教育委員会の点検・評価の実施方法等については、随時、改善を行い、より良い点検・評価の形を求めていきます。

VII 自己評価

項目ごとに、目標（達成指標）と取組結果、成果・実績を比較・勘案して、判断基準に従って自己評価を行います。

■ 取組結果の判断基準

評 価		達 成 度
A	実施した	100% 実施
B	ほぼ実施した	70～99% 実施
C	実施がやや不十分	51～69% 実施
D	実施が不十分	50%以下の実施

■ 自己評価（達成度）の判断基準

評 価		達 成 度
A	達成している	90～100% 達成
B	ほぼ達成している	70～89% 達成
C	やや達成していない	51～69% 達成
D	達成していない	50%以下

Ⅷ 点検・評価

No.	施策	目 標	平成29年度 自己点検・評価					学識経験者の意見	評価結果	今後の対応		
			取 組	結果	成果指標	実績	評価					
I	1 教育委員会会議の適切な開催と運営	(1) 教育委員会会議の適切な開催の推進	① 定期的・計画的な開催を図る。	・定期開催日の設定（年間計画作成）	A	・当面の重要課題について、充実した協議が実施されたか。（会議録にて判断）	実施	A	会議録の内容からは、活発な意見交換が行なわれるとともに、臨時委員会を開催し早急な対応をしていることがわかる。現場の教職員の声や地域の姿が反映する会議であってほしい。	A	教職員の声の吸い上げについては校長会との合同会議を通じ行なっていますが、指導主事の学校園訪問時に、より積極的に傾聴するようにします。保護者・地域の声については、学校評議員やPTA役員の声を校長から聞き取り、会議の場で発信するよう努めます。	
			② 必要に応じて速やかに開催する。	・毎月の定例会開催（年12回）	A							
				・臨時委員会の適切かつ迅速な開催	A							
		(2) 効果ある教育委員会会議運営の工夫	① 議案や議題を事前に通知する。	・重要事項の議案を事前通知	A							
	② 町長と協議・調整を行なう。		・総合教育会議の実施	A								
	③ 当面の教育課題（学校教育・社会教育）について協議する。		・校長会との合同開催	A								
	2 教育委員会活動の保護者や地域住民への情報発信	(1) 広報活動の充実	① 『川越町教育基本方針』の重点について保護者・地域住民への周知を図る。	② 教育委員会実施事業について、保護者・地域住民に向けて情報発信を図る。	・『川越町教育基本方針』重点のHP掲載	A	・保護者アンケート調査での、「川越町教育基本方針」重点の認知度75%以上	89%	A	年々「川越町教育基本方針」の認知度は向上している。努力は評価する。今後は、内容の理解がどれくらい進んでいるかに注目したい。PTA総会や役員会で、内容について発信する機会を設けてもいいのではないか。	A	PTA総会や家庭教育講座の場をお借りして、教育委員会の考え等を発信できるよう努めます。また、HP、マスメディア等を活用し、教育委員会実施事業や学校園の取組の発信を継続します。
					・幼小中保護者へ『川越町教育基本方針』リーフレットの配付	A						
		(2) 情報の公開	① 教育委員会活動の透明性を図る。	・『教育委員会の点検と評価』をHPにて公開	A							
				・開示請求に応じて、教育委員会会議の議事録を開示	—							
	3 教育委員の自己研鑽	(1) 今日的教育課題に関する研修	① 県教委、市町村教委の研修会等へ積極的に参加する。	② 今日的教育課題に関する先進的な取組への視察等を行う。	・県教育委員会主催の研修会等への参加	A	・教育委員会会議での協議に、研修結果が反映されたか。（会議録にて判断）	反映	A	「家庭の教育力の向上」や「教職員の総勤務時間の縮減」等、今日的な課題についての研修に取り組んでいることがわかる。町で、どのようなことが行えるのか、H30年度の、聖籠町への研修に期待したい。	A	聖籠町をはじめとした先進地への視察や、国や県などが実施する研修等、時宜を得た研修に参加し、教育委員会の施策に反映させます。
					・県内外で開催の研修会・研究協議会への参加、先進施設等への視察の実施（年1回）	A						
4 教育委員による学校及び教育施設の利用状況把握	(1) 学校訪問の充実	① 各校・園のオープンスクール、行事等へ積極的に参加する。	② 教育委員会（会議）を、各学校園で実施する。	・学校・園のオープンスクール、行事等への参加（各委員年5回）	A	・教育委員会会議において、教育環境に関する意見等が提案されたか。（会議録にて判断）	提案有り	B	整備計画等の提案を事務局から積極的に行うことにより、意見をもらうことが必要。安全・安心の観点に加え、教職員が働きやすい環境の整備もお願いする。	B	緊急的な教育環境整備を優先し、計画の見直しを図ります。来年度は、校務支援システム等、教職員の働く環境の整備についても検討を行います。	
				・各校園での教育委員会の開催（各校園1回）	A							
	(2) 教育施設訪問の充実	① 各校・園や関連施設の利用状況を把握し、改善を促す。	・学校・園や関連施設等の訪問と改善点の指摘（随時）	B								

No.	施策	目 標	平成29年度 自己点検・評価				学識経験者の意見	評価結果	今後の対応
			取 組	結果	成果指標	実績			
II	学校教育分野の活動 1 指導の重点 ☆一人ひとりが大切にされる教育の推進	(1) 確かな学力の育成 〈知識・技能・知恵〉	①言語力の育成をめざした指導の充実を図る。 ②基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ③思考力・判断力・表現力の育成（問題解決的な学習の推進）を図る。 ④主体的に粘り強く取り組む学習の推進を図る。 ⑤学習する意義と学習方法の指導の定着を図る。 ⑥家庭学習の定着を図る。 ⑦到達度検査（CRT）、全国学力・学習状況調査等の活用を図る。	・読書旅行事業の整備及び実施	A	・「読書がすきである」の肯定回答が80%以上	71%	B	学校園では、文書に現れない日々の取組がある。その成果を追跡し考察しないし継続した取組とならない。また、1年ごとの評価ではあるが、「学調」の結果等を用いて経年の評価も行う必要がある。 「主体的、対話的で深い学び」には、学び合いは有効であるが、教員の技術の向上が必要となる。そのための対策を練ってほしい。 家庭学習の定着等、家庭との連携には、担任と保護者の密接なかかわり合いが必要である。何が大切なのかを保護者に伝える必要がある。
				・基礎学力充実加配教員の配置（小中・週30時間以上の少人数授業の実施）	A	・CRTの到達度評価（小→2以上、中→3以上）が80%以上	87%		
				・CRT（学力検査）の実施と分析、児童生徒へのフィードバックに係る助言	A	・「普段の授業で友達と話し合う活動をしている」の肯定回答が90%以上	92%		
				・川越町学力向上推進委員会の開催	A	・「学校で決められた家庭学習を毎日している」の肯定回答が80%以上	81%		
				・主体的・対話的で深い学びを推進するための指導主事訪問（全教員に対して、年1回以上）	A	・「進んで学習に取り組んでいる」の肯定回答が80%以上	88%		
				・日本語指導員の配置（5名）	A				
				・「家庭学習の手引き」の作成・配布（全教員・保護者（来入児含む）対象、HP掲載）	A				
				・「川越スタンダード」による授業改善の推進・充実した実践	A				
		(2) 豊かな心の育成 〈思いやる心・感動する心〉	①人権教育を中心にすえた教育活動の充実を図る。 ②いじめ・不登校対策の充実を図る。 ③「ひと・もの・こと」に出会う体験活動の充実を図る。 ④道徳実践力の育成を図る。 ⑤規範意識と自己指導能力の育成を図る。 ⑥グローバル教育の推進を図る。 ⑦『あいさつ・ていねいな言葉づかい』の定着を図る。	・法教育推進事業の整備及び実施	A	・「自分にはよいところがある」の肯定回答が80%以上	69%	B	「法教育」や「夢先生」は好評であった。取組の良さが地域に伝わると、地域の子どもを見る目も変わってくる。地域を巻き込むために、発信の仕方にも工夫してほしい。 「ていねいな言葉づかい」については、入園・入学時の指導が一番大切と考える。充実してほしい。 教育委員会は、最前線の課題を発信していく必要がある。教職員が課題を身近に感じ、現場の取組の中で生かしていくような方向づけをお願いする。
				・人権教育カリキュラムに沿った人権教育の推進（小中）	A	・全国学力・学習状況調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定回答が90%以上	94%		
				・「自然教室」の実施（小中、全額公費負担）	A	・「ていねいな言葉づかいができた」の肯定回答が80%以上	80%		
				・「自分発見！地域ふれあい事業」の実施（中）	A	・「学校のまわりを守っている」の肯定回答が80%以上	91%		
・いじめに関する実態調査の実施（小中・学期に1回以上）	A								
・夢の創造推進事業の整備及び実施	A								
(3) 健やかな身体の育成 〈運動を楽しむ力・健康安全意識〉	①運動（遊び）の生活化を図る。 ②保健・体育の授業の充実を図る。 ③自らの健康を管理・改善する資質や能力の育成を図る。 ④日常生活に生きる安全教育の充実を図る。 ⑤園・学校教育活動全体を通じた食育の推進を図る。	・部活動等、大会行事の参加に必要な経費の助成	A	・「進んで運動に取り組んでいる」の肯定回答が、80%以上	86%	B	防災については、マンネリ化を防ぐとともに保護者を巻き込んだ地域防災へと広げてほしい。特に中学生は地域を助ける防災教育をお願いする。 食育は、家庭における栄養の管理が必要。 幼小中の連携が大切な分野である。そこができれば、教育委員会としては、状況把握だけでよいのではないだろうか。		
		・養護教員部会と連携した、学校保健に関する学習会等の実施（年1回以上）	A	・「新体力テスト（小5、中2）」における総合判定C以上の割合が、70%以上	小 73.6% 中 68.8%				
		・食に関する授業の実施	A						
		・新体力テストの継続実施	A	・各学校・園の危機管理体制を見直し、必要とする内容で年間計画通り実践したか。	実施				
		・防災にかかわる授業の推進（授業・体験内容の充実）	A						

No.	施策	目 標	平成29年度 自己点検・評価				学識経験者の意見	評価結果	今後の対応		
			取 組	結果	成果指標	実績 評価					
II	学校教育分野の活動	2 研修の重点 ☆ 教師の学びを支える研修の推進	(1) 「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を実感できる授業の推進 ①校内研修の活性化と授業を中心にすえた研修体制の確立を図る。 ②「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を実感させる授業づくりの推進を図る。 ③学びを続ける意欲を引き出す授業の創造を図る。 ④目標に準拠した評価の確実な実施を図る。	・保育・授業公開時の、指導主事の事後検討会への参加	A	・「一人ひとりが主体的に取り組めるような指導の充実を図っている」の肯定回答が90%以上	97%	A	アクティブ・ラーニング型授業への転換は必須である。積極的な授業交流により、相互で高め合うことが必要。 研修制度やアドバイザーの配置を継続し、新学習指導要領に沿った教員の授業力の更なる向上をお願いする。	A	学習指導要領の改訂を受け、国の方向性や新しい視点での学習の在り方について教職員の理解を深めるためにも、各校園の研修会へ外部講師や北勢教育支援事務所指導主事を要請するなど、子どもたちが「主体的、対話的で深い学び」を獲得できる授業づくりの研究に努めます。
				・授業改善や学力向上に関する外部指導者の紹介、研修会等の実施方法について支援（各校3回以上の開催を推進）	A	・「先生はていねいな教え方やアドバイスをしてくれる。」の肯定回答が80%以上	92%				
				・町研究員制度を活用した教職員への還流報告の場の設定（夏季教職員研修会）	A						
				・授業力向上に向けた学力向上アドバイザーの配置	A						
		(2) 安全で安心な園・学校づくりの推進	①生徒指導の充実の推進を図る。 ②魅力ある園・学校、学級づくりの推進を図る。 ③防災教育、防災対策をはじめとする、子どもの安全・安心を確保するための研修の推進を図る。	・指導主事による、児童生徒の実態把握のための学校訪問及び指導・助言	A	・Q-U調査の「要支援群」の減少（1回目と2回目を比較）	Q+5 39⇒44	C	Q-U調査や「学び合い」の授業の中で子どもの変化に早く気づき、その情報を組織で共有し、対応することが大切。 一方で、すべてを学校が背負うのではなく、多くの人と分配するためのルートを用意しておくことも必要。	C	「川越町いじめ問題対策連絡協議会」を通して、町ぐるみで子どもの安心・安全を守る体制づくりを進めます。 学校園が進める「仲間づくり」について、Q-U調査や専門家の観察結果等の分析を進め、全教職員で子どもに係る体制を進めます。
				・QU調査の実施と分析方法の助言（小2～中3）	A	・問題行動等報告の件数が、昨年度より減少	間+6 5⇒11				
				・不登校支援員の配置	A	・不登校児童生徒数が昨年度より減少	不-4 14⇒10				
				・薬物乱用・ネットモラル等学習会の外部講師紹介及び派遣	A						
		(3) 今日的教育課題に対応した研修の推進	①幼児・児童・生徒の実態や課題（学ぶ意欲の低下、人間関係の希薄化、規範意識の低下、耐性の欠如、自立性の不足、自己中心等）に対応する教育活動の重点に関する研修の推進を図る。 ②園・学校の実情に応じた特色ある教育活動のための研修の推進を図る。 ③時代の変容がもたらす社会的課題に対応するための研修の推進を図る。	・町教委主催教職員研修会の実施	A	町教委主催の教職員研修会アンケートにおいて、肯定回答が90%以上	99% (220/222)	A	今後も教師の資質向上を目指した実りある研修会を企画されたい。 一方で学校園は「外部の力を借りる」という発想が苦手である。積極的なアウトソーシングがあってもいいのではないかな。	A	今後も教師の授業力向上を目的とした研修の企画に取り組みます。また、学校園の研究課題に応じた外部講師の紹介及び派遣にも継続して取り組みます。
				・主任等研修会や各種担当者会議など、子どもたちの課題把握と今後の方向性について確認する場の設定（年3回以上）	A						
				・園・学校の研究課題に応じた外部講師の紹介及び派遣	A						
	(4) 保幼小中の連携の推進	①将来の社会的・職業的自立に向けた継続的なキャリア教育のための研修の推進を図る。 ②発達段階に応じた継続的な特別支援教育のための研修の推進を図る。 ③育ちや学びの連続性を意識した互恵性のある教育技術の共有化を図る。 ④相談支援体制の確立を図る。	・川越中学校区教育懇談会による情報公開と課題別の連携協議	A	・全国学力・学習状況調査「将来の夢や目標を持っている」の肯定回答が小学生85%、中学生75%以上 ・保幼小中の教員が、定期的に交流・連携する機会を設定できたか。	小+6 86% 中+3 69%	B	町内の状況も大きく変化している。これまで以上に保幼小中連携が必要となる。 特別支援教育を中心とした連携は、教員の子どもの見方も広がり、効果的ではないかな。今後に期待する。	B	幼小中の接続だけでなく中高のつながりを考え、義務教育のうちにつけるべき力を共有し、社会人の一人として自立するための力をつけるよう、ていねいな助言・指導に努めます。また、より良い就学支援体制の構築を図ります。	
			・適切な指導・支援のための、特別支援教育アドバイザーの配置	A							
			・こども・家庭相談支援係、西日野にじ学園等との連携推進	A							
			・特別支援教育に関する外部指導者を招聘した研修会の実施（年1回以上）	A							
3 経営の重点 ☆ 信頼される園・学校づくりの推進	(1) 開かれた園・学校づくりの推進	・保幼小中連携にかかわる公開保育・公開授業の実施	A	・保護者アンケート「学校公開や各種通信、HPなどを通じて学校の情報を発信している」の肯定回答が80%以上 ・学校・園支援ボランティアの参加数の累計が年間100人以上で実施されたか。	96%	A	他市町の学校HPには、それぞれの学校の個性が表れている。学校園の良さが伝わるHPを目指してほしい。 教職員の多忙化解消のためにも、ボランティア等、協力者の拡充は継続をお願いしたい。	A	地域・保護者のニーズに耳を傾け、的確な対応が行えるよう学校園を支援するとともに、地域の協力者の拡充を継続して行います。		
		・学校・園オープンスクールの実施	A								
		・地域の教育力の活用を支援（地域教材・地域人材の活用支援）	A								
		・学校・園支援ボランティアの拡充	B								
	(2) 人材育成の推進	①教職員自らが資質・能力の向上に取り組める環境を設定する。 ②教職員の課題に応じた研修会を実施する。	・「教職員育成支援のための人事評価制度」の適切な運用の指導	A	・管理職への聞き取り	100%	A	今後も「人材育成」の視点から、適切な面談をお願いする。	A	管理職との面談の実施によって各教職員の課題・目標を定期的に評価・改善し、教職員それぞれの個性と能力が最大限に発揮されるよう助言します。	
			・川越町教育研究員制度の継続と、それを活用した自主研修の推進（幼小中、研究員15名）	A							

No.	施策	目 標	平成29年度 自己点検・評価				学識経験者の意見	評価結果	今後の対応	
			取 組	結果	成果指標	実績 評価				
II	学校教育分野の活動 3点 経営の重点 ☆信頼される園・学校づくりの推進	(3) 安心・安全な環境整備の推進	①安全で楽しく過ごせる園・学校施設の改善を図る。 ②警察や関係機関と連携した安心な園・学校づくり推進を図る。 ③地域と連携した未然防止策の推進を図ること。 ④教職員の危機管理意識の向上と各園・校の危機管理マニュアルの日常的な見直しを図る。	・警察や関係機関と連携した防災・防犯教室の実施の促進(幼小中) ・登下校における、スクールサポート等の確保(小) ・「絆ネット」を活用した不審者情報等の発信(幼小中) ・小学校新入生に校区安全マップの配布 ・学校施設(危険箇所の修繕など)の改善(幼小中) ・危機管理マニュアルの作成と見直しの促進(幼小中)	A A A A A	・学校アンケート「学校は、緊急時の対応など、危機管理体制に気を配っている」の肯定回答が90%以上 ・スポーツ振興センター請求の災害発生件数が昨年度より減少	96% A H28(114) ↓ H29(111)	児童生徒の安全・安心への意識向上が、保護者の意識の向上につながる。保護者が学ぶ機会もぜひ、つけてほしい。「子どもを守る」ことが過保護になりすぎると、自分で自分の命を守る力が弱まることにも留意したい。施設改善については、床の滑り、非常階段の点検等、非常時を想定したものであってほしい。	A	PTAと連携した通学路点検を継続するとともに、保護者に対する交通安全意識の啓発を図ります。学校園の安全点検、避難訓練の機会には、非常時を想定した施設の改善点を聞き取り、対応します。
			(4) 学校経営手法の定着	①園・学校教育ビジョンを策定し、その実現のための積極的な教育活動の推進を図る。 ②保護者や子どもからのアンケートを活用した「学校自己評価」の取組推進と結果公表を図る。 ③「園・学校関係者評価」の実施と園・学校経営改善の推進を図る。 ④教職員が働きやすい環境づくりの取組を図る。	・「川越町教育基本方針」の町研修会での周知(幼小中) ・「特色ある教育活動補助事業」の実施 ・「学校(園)づくりビジョン」のヒヤリングにおける指導・助言 ・学校関係者評価による学校経営改善方針についてのヒヤリングの実施	A A A A	・学校自己評価の報告(ビジョンに対して成果と課題が考察され、改善策が練られているか。) ・学校関係者評価の報告(学校自己評価を基にした建設的な話し合いがなされているか。)	良好 A 良好	「川越町教育基本方針」「学校づくりビジョン」も、重点は明確であるものの、実現に向けた具体策が伝わりにくい。また、実現に向けて管理職は教職員にどのような指導・助言を行っているのか。	A
III	社会教育分野の活動 1 人づくり・まちづくり 2 思い合うまち	(1) 明るい家庭、住みよい地域社会づくりの推進と青少年の健全育成の充実	①家庭教育の推進 ②青少年の健全育成 ③三世代交流(ふれあい活動)の推進 ④「あいさつ・声かけ運動」(あいさつ+1)の推進 ⑤「川越町安全なまちづくり指針」に基づく関係機関等との連携の推進	・「あいさつ・声かけ運動」の発展に向けて、あいさつ+1(ぶらすわん)参加者の増に向けた取組の実施 ・非行防止補導活動の実施(年17回)と内容の工夫 ・「子ども110番の家」と関係者等の連携会議の開催と内容の工夫 ・総合型地域スポーツクラブFAGにて体験事業の実施 ・三世代交流事業の実施(10地区) ・成人式の実行委員による企画と運営 ・家庭教育に関する講演会の開催	A A A A A A	・あいさつ+1(ぶらすわん)登録者数の増 単年度増加30名 ・成人式の実行委員による自主的な企画と運営の実施 ・少年非行概況による補導状況で、川越町内の「深夜はいいい」の件数が31件以下 ・三世代交流事業参加者数の増(67人) ・家庭教育講演会でアンケート調査を実施し「意識の向上に役立った」の回答率が80%以上	1名増加 円滑に実施 20件 47人増 95%	あいさつ・声かけ運動について、人の伝達を大切にしながら、今後も地道な取り組みを続けて欲しい。三世代交流について、更なる参加者の集客が図れるよう働きかけて欲しい。子ども110番のかわら版は評価出来る。今後も非行防止補導活動を続けて欲しい。	B	あいさつ・声かけ運動を着実に浸透させるよう引き続き努力していきます。引き続き子ども110番のかわら版を発行するとともに、町内における青少年非行防止活動に理解を深めてもらうよう努力します。
			(1) 心豊かで活力と連携に満ちた地域づくりの推進	①人権尊重社会の実現をめざした町組織の充実 ②人権問題への正しい理解と認識、主体的活動の推進 ③人権啓発活動の推進	・人権・同和教育推進協議会役員会の開催(3回) ・参加型人権学習会を実施(5回) ・三重県人権・同和教育研究会へ参加	A A A	・学習会及び研究大会への参加者アンケート結果で「人権意識向上」の回答率が80%以上 ・参加型人権学習会参加者数の増(前回同地区より増)	94% 同数	今後も人権講座など、町民の人権意識向上に取り組んでいただきたい。	A

No.	施策	目標	平成29年度 自己点検・評価					学識経験者の意見	評価結果	今後の対応		
			取組	結果	成果指標	実績	評価					
III	社会教育分野の活動	3 学び合うまち	(1)いつでもだれもが学べる生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ①学習講座の充実 ②学び合える場の充実 ③「学ぶ楽しさ感」を味わうことができる機会の学習情報発信の推進 ④生涯学習環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館を中心に高齢者から小学生までを対象とした講座を開設(23教室) ・「学ぶ楽しさ感」を伝えるため、講座等の活動の様子をホームページ等に掲載 ・愛好会新規会員募集の支援 ・川越富洲原駅構内ショーケース及び役場ホールに愛好会等の作品の展示 ・魅力ある図書室経営の工夫(貸出冊数前年比3%増) ・読み聞かせ・お話の会の開催(24回) ・MLK連携事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> A C A B A A A 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座受講者にアンケート調査を実施、「満足」以上の回答率が80%以上 ・受講者数の増加(20人) ・図書貸出冊数の増加 ・MLK連携事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 87.4% 8名減 5.1%増 	B	<p>SNSやLINEなど、保護者が危険性や操作性を理解していないため、保護者の理解が必要である。よって、今のニーズにあった公民館講座の開設を望む。</p> <p>読み聞かせ・お話し会など、子どものころから読書に親しむことはいい事である。引き続き推進して欲しい。</p> <p>HPの閲覧数を分析し次につなげてはどうか。</p>	A	<p>時代のニーズに対応した講座について検討していきます。</p> <p>小さな頃から本に親しめるような機会を引き続き提供していきます。</p> <p>HPを見て、楽しさ感を十分に伝えることにより、受講者数の増加につなげていきたい。</p>
		4 文化の薫り高いまち	(1)文化芸術に親しむ機会の充実、地域文化の保存・継承	<ul style="list-style-type: none"> ①多様な芸術・文化にふれる機会の充実 ②文化活動の場、発表機会の充実 ③地域に伝わる伝統文化、文化財の調査と記録及び保存と継承の推進 ④郷土資料の適切な収集・保存・展示のための新たな施設整備 ⑤「わくわく感」、「ふるさと感」を味わうことができる機会の情報発信の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいあいホール自主事業の内容を企画委員会で検討し、町民の意見を反映した多様な分野のメニューの提供 ・町内の方を対象に、あいあい自主事業の内容についてアンケート調査の実施 ・文化祭における芸術・芸能の発表機会の提供 ・町指定無形民俗文化財映像ソフト、文化財調査実績の活用 ・町内施設等において資料館所蔵品の一部展示 ・町HPにおいて、あいあいホール自主事業などの情報を随時提供 ・MLK連携事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> A A A B C A A 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいあいホール自主事業において入場者アンケートを実施し、その結果において、「たいへん満足」「満足」の回答率が80%以上。 ・郷土の歴史や文化に関する問い合わせ件数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 93.3% 増加 	A	<p>自主事業などのイベントは、人々のふれあいや絆づくりのポイントでもある。引き続き継続して頂きたい。</p> <p>文化財については、広報活動や地域ボランティアによるガイド的なイベント、地域を超えたイベントなど、今後新たな取り組みに期待したい。</p> <p>資料展示について、常設展示ばかりでなく、ついでに見れる形を検討してみたい。</p>	A	<p>今後も定期的にイベントを継続していきます。</p> <p>文化財については、新たな広報、啓発活動を検討・推進するとともに、近隣地域との連携も視野に入れた取り組みを検討していきます。</p>
		5 心身ともに健やかなまち	(1)スポーツの推進と健康で心豊かなまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ①スポーツ・レクリエーションの普及と推進 ②スポーツを通じた仲間づくりの推進とスポーツ団体の育成、支援 ③スポーツ指導者、リーダーの育成・充実 ④スポーツ施設の充実と利用促進 ⑤「運動する楽しさ感」を伝える広報活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトテニス教室、シェイプアップ教室、ハイキング等の開催 ・「運動する楽しさ感」を伝えるため、教室等の活動の様子をホームページ等に掲載 ・体育協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブFAGの維持継続 ・各活動への講師の派遣 ・総合運動場の施設及び運動用具等の維持管理の充実 	<ul style="list-style-type: none"> A C A A A 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室等の参加者に対してアンケートを実施し、その結果において「満足」以上の回答率が80%以上。 ・教室参加者数の増。 ・スポーツ施設の利用団体数及び利用者数の増。 	<ul style="list-style-type: none"> 94% 2名増 団体数9.8%減 個人数3.5%減 	B	<p>幼少期からスポーツに親しむ風土があり素晴らしいと感じている。地域スポーツと学校スポーツの連携も必要であり、また子どもらしさを出すのも重要である。</p> <p>歴史と絡めたハイキングなど、多様なスポーツ振興の取り組みをお願いしたい。</p>	B	<p>今後も、引き続き広報や啓発を行います。</p> <p>生涯にわたり多種多様なスポーツに親しむことが出来るよう普及・振興を図ります。</p>

IX 総 評

『平成29年度教育委員会の点検と評価』につきましては、設定した取組内容を点検し、成果指標等に基づき自己評価を行なうとともに、学識経験者の方々からのご意見をいただき評価を行ないました。

平成29年度は、学校教育・社会教育とも取組の評価は高いものの成果指標に十分達しなかった施策がみられました。学校教育・社会教育への注目が高まる中、子ども、保護者、地域のニーズの多様化、課題の複雑化により、学校園や行政だけでは背負いきれない現実があります。教職員の多忙化が進む中、学識経験者からも、関係機関、地域、保護者の参画による「チームによる教育」の必要性についてご示唆をいただきました。

教育委員会では、学習指導要領等の改訂を受け、「川越町教育基本方針」に照らし合わせながら、「学力・体力の向上」「豊かな心の育成」をはじめ、「防災・減災対策」「いじめや差別の無い町づくり」など、重点的な取組について施策を見直すとともに、必要に応じて改善を行ってまいります。

今後も、子どもたちや町民の皆さんが「学ぶこと」や「集うこと」の楽しさを実感できるような町となるよう、学校教育・社会教育を推進していきたいと考えます。ご協力をよろしくお願いいたします。